

柏西ロータリークラブ

創立：1975年11月 7日
承認：1975年11月24日

四つのテスト

1. 真実かどうか？
 2. みんなに公平か？
 3. 好意と友情を深めるか？
 4. みんなのためになるかどうか？
- インスピレーションになろう
2018-2019年度 会長：高田 住男 幹事：齋藤 敏文



第2052回通常例会 (2018.8.10)

■柏西ロータリークラブ URL: <http://kashiwa-nishi-rc.com/>■第2790地区ロータリークラブ URL: <http://www.rid2790.p/2018/>

2052回通常例会

1. 点 鐘 高田住男 会長
1. 会長挨拶 高田住男 会長
1. 幹事報告 齋藤敏文 幹事
1. 卓 話 溜川良次 様
1. 点 鐘 高田住男 会長

※点鐘後第2回クラブ協議会を開催しましたが、内容が8月24日に行われるガバナー公式訪問の予行練習であるため、発表内容は8月24日の会報に掲載します。

会長挨拶

会長 高田 住男



皆様こんにちは。本日はガバナー公式訪問2週間前のガバナー補佐来会による第2回クラブ協議会を開催させていただきます。

本日のガバナー補佐・幹事さんの訪問は、ガバナー公式訪問の前に、当柏西RCがクラブ協議会でどのような内容の協議をするか、ガバナー補佐からガバナーに報告し、ガバナーが本番に備えるということが一つの目的ではないかと思料致します。間違いでしたら、後で教えて頂ければと思います。また、どのように本番のクラブ協議会を進行していくのか、我孫子RC会長・幹事さんと齋藤幹事と共に打ち合せをさせていただきましたが、当クラブのクラブ協議会の時間配分は、2年前の馬場会長年度（その年度も我孫子RCと合同の協議会）と同様にさせて頂いてくことになりました。今日柏西RCの協議会テーマですが、ガバナー補佐のご指導に基づき奉仕プロジェクトに限って協議をお願いすることにしました。

さて、今書店でのベストセラーと言われている本があります。それは、「未来の年表」（河合雅司著、産経新聞社論説委員、講談社現代新書版）です。中身は、見方によって

は恐ろしい予測が書かれています。2020年には女性の半数が50歳を超える。2023年には企業の人件費はピークを迎える。2024年全国の3人に1人は65歳以上・社会保障費が膨らむ。2027年輸血用血液が不足。2033年3戸に1戸が空き家。2039年火葬場が不足。2040年自治体の半数が消滅・・・と。そのようなことが起きることが予想される時、ロータリーはどのように進んでいくべきでしょうか。今までの当クラブの奉仕活動は素晴らしく、間違っていないと感じますが、これを永久に続けることについて、ここで立ち止まって考えてみたいと思うわけです。会員の皆様には、盆休み時間がありましたら一読されることをお勧めします。

本日の具体的進め方に関しては、クラブ協議会にて齋藤幹事に説明をさせていただきますのでよろしくお願い致します。また、ご意見がございましたら、お願い致します。

幹事報告

齋藤 敏文

- ①米山記念奨学会への寄付に対して、感謝状の送付
鈴木子郎会員：第6回米山功労者
鈴木桂三会員：第8回米山功労者
- ②8月9日直前ガバナー事務所閉鎖のお知らせ
- ③ロータリーカード作成、及び推進の依頼
- ④米山記念奨学会学友会「ロータリーデー BBQ 大会
2018の案内
日時：9月1日（土）14：00～
場所：千葉県立幕張海浜公園 BBQ ガーデン

参加費：ロータリアン 5,000円 / 奨学生 2,000円

⑤例会変更のお知らせ

我孫子RC：8/14(火) 休会
8/21(火)は8/24(金) ガバナー公式訪問へ変更
8/28(火)は8/25(土)「あびこかっぱまつり」へ変更

委員会報告

- ①地区財団委員会 水野晋次 統括副委員長
ロータリーカード作成、及び推進の依頼

例会日/金曜日 12:30～
例会場/ザ・クレストホテル柏
〒277-0842 柏市末広町14-1
TEL: 04-7146-1111 FAX: 04-7146-2100

事務局/〒277-0011 柏市東上町7-18
柏商工会議所会館 505
TEL: 04-7162-2323 FAX: 04-7166-8282
E-mail: kashiwanishi@io.ocn.ne.jp

Rotary





柏ロータリーの溜川と申します。今回橋岡ガバナーの意向で、分区と長年親しんできた言葉がグループに変わりました。ガバナーのお話ですと、全国的に、あるいは世界のスタンダードに近づけるとグループというのが適当であろうということで、採用された旨伺っております。従いまして私ども第 10 分区という名前に親しみを持っていますが、11 グループということになりました。ご承知の通り千葉に 2 つの分区がありましたので、それを通し番号にすると一番繰り下がって我々は 10 から 11 になったと言うことでございます。何にしましても一番と着くのは気持ちのいいものでございますので、11 ということで新しくこの数字に親しもうと個人的に思っております。

今日は貴重なお時間をいただきまして、私の今日の話では、今の会員さんの中には、私の良いところ悪いところ随分とご承知おきの方が多と思うものですから、私はとても緊張して今日を迎えております。知った人が多いというのは緊張しないのかなというのは真逆でございまして、正体がバレていますから格好の良いことを言っても話になりません。幸い私は性格が性格で、物事を結構はっきりしてる人間ですので、これまでも多々ご迷惑をかけてきたと思いますが、その所を差し引かれて今日耳を貸していただけたらと思います。

今日の話というのは、ガバナー公式訪問の前の私どもの訪問ということになりまして、ガバナー公式訪問の趣旨をきちっと皆様にお伝えするというのが大事な役割となっております。私が勝手におもしろおかしい話をするわけにもまいりませんので、その点まずご承知おきいただければと思います。面白おかしい話をしろと言われれば 1 時間でも 2 時間でも好きな人間でやらせて頂きますが、今日はちょっとそういう時間もございませんので、お許しいただきたいと思っております。

まず冒頭に話を始める前に、前置きが長くなりますが、寺嶋ガバナー年度におきましては大変お世話になりました。特に柏西クラブの皆様は、勢力も大きくございますし、柏クラブ・柏西クラブという非常に親しい、地域的にも重なるところが多々ございます。色々な所で顔を合

わせるメンバーが多くいらっしゃるクラブでございまして、その点まず私は柏クラブの会長ということで、寺嶋年度を務めたものですから改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

先程緊張すると申し上げましたが、当クラブには中村パストガバナーがいらっしゃいますので、私がガバナー公式訪問の前の務めを無事に果たせるかどうか危ういところですが、ちゃんとしたアドバイザーもいらっしゃいますので、中村パストにおかれては私が違うことを言いましたら、それは違うなどと言っただけならばそこで訂正をさせていただきたいと思っております。また私はこう考えますということがあれば、私は実直に申し上げますので、その点もしあればあったできちっと皆様の前で話をしていこうと思っております。ただクラブ内にアドバイザーがいるというのはとても羨ましい限りでございまして、私ども寺嶋さんがパストということになりましたので、とても良い環境ではありますが、なかなか表面切ってどうのこうのという場はあるかどうかわかりませんので、西さんの場合は中村パストはロータリーの造詣も深く、ご意見もきちっと持つての方ですので、その点では非常に西クラブは恵まれているのではないかと思われます。

さて、そういう緊張感の中で私がお伝えするのは間違っははいけませんから、いくらか虎の巻を持ってきております。それは事務所から配られました、要するにガバナー補佐は何をやるんだというような事柄が書かれた虎の巻がございまして。そこでガバナー公式訪問とは何なのかということが書かれておりますので、そここのところは棒読みさせていただきます。まず、本来の訪問の意味は、地区ガバナーがクラブを訪問し、国際ロータリーの情報をお伝えし、各グループや個々のクラブの活動状況を把握し、これを国際ロータリーに報告すると、まずここで文節が切れるわけですね。そして共に、ゾーン、あるいはその国でクラブの円滑な塊の中で、クラブの活性化や地区の円滑な運営に向けて、様々な取り組みや研究をする際に情報交換を行うための大切な訪問なのです、と、こう書かれております。要するに平たく申し上げれば、各クラブにある RI の話をされたり、当然 RI 会長さんの真意というのはここにありということをお話しされたり、あと各グループ、あるいは個々のクラブがこんな活動をしています、ということをお話ししたり、あるいは当然、クラブの活動がさらに充実されるように、あるいは展開しやすいようにガバナーという立場で色々な力添えをする、というようなものであろうと理解できる場所です。そういう中で、2 週間程度前にガバナー補佐は行くのだということになっておりますが、これは単なる挨拶の場ではなくて、そういうことをきちっともう 1 回、西クラブの皆さんもとっくに分かってることですが、

それをもう1回再認識しようということは何うということですか。また当然役務の名称から言ってもガバナー補佐と言いますから、ガバナーを支えていくという立場を背負っておりますので、橋岡ガバナーの意向をきちっと私としてもお伝えしたり、あるいはもし曲解や誤解があれば、それはこういうことではないかということお話しすると言うことが、ガバナーは頻りに各クラブを回れませんで、それをさせていただくというのが私の務めであろうと思っております。

そこで今回ラシンRI会長のことについては、ガバナーから直接話を伺った方が良いかと思いますが、色々活動計画書の冒頭にも会長のお話ののっておりますが、これ今回非常に難解ですね。それでこちらの報告書にも委員長のお話を書いてありました。これをどう考えていこうかと言うことを率直に書かれていたことを記憶していますが、ただインスピレーションという言葉は、英語をよく分からない私が言うので不確かなところがありますが、得意な方がいらしたらご訂正いただきたいのですが、アメリカの人たちはインスピレーションというのを気楽に使うんですね。それで日常的にいろんな場面でインスピレーションを使う場面が多いと僕は思っております。例えば我孫子でもお話ししたんですが、ビューティフルという言葉が出てくると、我々直感的に美しいということで、綺麗な女性を考えてしまったり、美しい何かを思い浮かべると言うことが普通ではないかと思いますが、ところが皆さんご承知の通り、何かご飯を食べて、何か美味しいものを食べた人がビューティフルと使ったりします。これは我々の言葉で言うと美味しいというわけです。美しいと美味しいと言うのは文字面から言えば全然違うわけですし、インスピレーションというのはそれぐらい非常に多様な使われ方をする言葉だと思います。ただ問題なのが、be the inspiration ということで、定冠詞がついているということで、日本語に訳す時、ロータリーの役割を背負った人たちが、インスピレーションが多様すぎて意識できなかったんでしょね。だからインスピレーションになろう、となったわけでありまして、定冠詞がついているということから言っても、インスピレーションというものをひとつの曖昧なものではなくて、大きな塊として捉えてると言うことは言えると思うんですが、それにしても中身がかなり多様性に富んでいると。それこそ齋藤幹事は音楽が詳しいから、私、高校ぐらいの時代に、アメリカのロックバンドでシカゴというグループが流行った時代があるんですけど、シカゴの歌にbe the inspirationというのがあるんですね。その流れから見ると、なんてことのない感じがします。何かのきっかけの時にサッと使うみたいな、閃いたとか第六感だとか、いろんな辞書を引けば出てきますけれども、その点では異常に柔軟性のある言葉なので、要は高田会長さんもしっかりご自身で訳されていたんですね、きちっと捕らえていらっしゃるなと思っておりますけれど。要は何かのきっかけというか、我々の頭に何か浮かんだひ

とつエネルギー、何か行動するための一つのエネルギーを出して、そして何かをやるんじゃないかというような、火山のマグマみたいな部分を、ロータリーはそこから始まるんだと、これは皆さんもそうだと思います。ロータリアンの皆さんはそれぞれの事業をしっかりと回している方でいらっしゃるって、そういう方は必ず心のマグマを持っているわけです。マグマは持っているだけではしょうがなく、やはり噴火させて目に見えるものにしなければならぬわけです。そして噴火したのはいいけれど、噴火したものが人様の迷惑になるのではなく、役に立つ噴火の仕方をしようじゃないか、というのがロータリーであろうと思うんですが、じゅくじゅくとしたマグマ、あるいはマグマ以前の物を、もう1回再認識しようというようなぐらいのことでいいと思います。そしてそれをしっかり膨らませて、充実させて、そして秘めておくのではなくて、みんな出そうよと、そしてそれが社会のため、社会を動かすひとつの原動力になろうではないかと、また、ロータリアンの人たちはそれができる人だよと、こういうことをラシン会長は言っているわけです。それができると。ところが残念ながら、ロータリアンの皆さんの中にはロータリーの本当の楽しさだとか、ロータリーの材料を持っているとか、こんなやり方があるんだとかいうことを、ちょっと知らなすぎるかもしれません。だからそういうことはみんな学びましょうよと、そしてそれをまたロータリーに触れてない方達にも示して行こうと、そういうようなことだろうというように、私は捉えております。その意味ではとても情熱的と言うか、RIの会長さんだと思っております。とても素晴らしい会長を配したのではないのでしょうか。

そして、それを受けた橋岡ガバナーが、またさらにそれをガバナーとしての意味合いをつけているわけです。橋岡ガバナーはとても温和な方に見受けられます。これまで何回か、5~6回でしょうか、補佐や地区の委員長さんとの会議などで触れておりますけれども、大変いつも腰の低い、そして穏やかな、人と争うと言ったことはあまり望まないと言いますか、もともとそういうキャラクターに拝見をしております。しかしながら、ご承知の通り能という世界にいる方で、極めてロータリアンであり、ガバナーになられると言うような、職業的な色合いから言いますと、ユニークな部分ですね。私どもはそのユニークな職業を持っている橋岡ガバナーから学ぶものがきっとあるのではないかと、私自身は捉えたいと思っております。温和であり、融和的などということは、ある意味、捉えどころがないと言えるかもしれませんし、何かどっちなんだろうと、あるいはガバナーのお考えはどっちなんだろうと、私は短気な性格なもので白黒はっきりしたものが好きな性格なんです。そういうことから言うとやや物足りなさは正直言って感じます。しかしながらそれは、やはり友情を深めようと言う、ロータリーの根幹的な部分を身をもって身につけているというか、

そういう方と理解をしていけばよろしいかなと自分では解釈しております、なおかつ伝統といったものを自らやって来たものを、しっかり地区の方針として打ち出されています。その伝統といったものの捉え方ですが、こうも言われています。要は伝統は守らなければいけないけれども、ただそこに居座っているだけではならないということも述べているわけです。これは寺嶋ガバナー一年度の時の地区方針で出された、理念と実践にも繋がっていく話なんです、要は良いものは温故知新の世界です。良いものは続けて行こうと、しかしながらそれを変えて行ったり、必要に応じて何かを変化させたりすることについて、横着ではいけないと言う、なおかつ臆病であってはいけないと言うようなことであると思います。そしてその未来という中をどう捉えるかと言うと、やはりロータリーの可能性といったものをもっと我々が認識している以上の認識を持って、可能性を膨らませて頂きたいと、皆さんはそれだけのお力があるんだと言うことで、そのためには会員を増やすのもひとつでしょうという話になっていくわけです。そして尚且つそのロータリーを学び、そしてRIが推奨している目標としている色々な事柄についても積極的に関わって下さいというようなことを具体的に述べておられるというのが、橋岡ガバナーの今回の地区の方針であろうと思っております。こういったものが既に文章化されて頂いておりますこの活動

計画書にもしっかり掲載されておりますので、何回も何回も読み砕いていただければ私なりの解釈していることが正しいかどうかを含めまして、皆様の中で料理されることであろうと思われまますので、そこに最終的にはお任せしたいところですが、そういうガバナーが橋岡ガバナーでいらっしゃる言うように、まずはご披露させていただきます。従いまして、ガバナー公式訪問されましたら、是非皆さんお近づきになっていただきまして、そういう人格と言うかパーソナリティに触れていただきたいですし、また今年度のガバナーがやりたいという方向を出しているのについて、皆さん力のあるクラブでございますので、それに沿って一働き頑張ろうという気持ちをその時に強くしていただければなと思うわけでございます。是非そのような時間にしていただければと思います。どうぞ皆さん、公式訪問におかれましては、そのような橋岡ガバナーに触れていただき、そして親しみをもってお迎えいただければと、何も緊張することはございません。ある意味私なんかよりよっぽど、融和的な溶け込みやすい人格の方ですので、優しくお迎えいただければと思います。

それでは時間がまいりました。中途半端なお話になったかもしれませんが、お許しいただきまして、今日のお話しさせていただきます。ありがとうございました。

第2回クラブ協議会講評

第11 グループガバナー補佐 溜川 良次 様

大変充実したご意見が多数出ております。と言うか報告がですね、素晴らしいものなので、いくらか生意気に触れさせてください。

西クラブたいしたものですね。今一つ一つ取り上げる時間はないと思いますが、もっともっと取り上げなければいけない報告が出ているのに、私がいくつか抜粋をさせていただきますが、まずその点お詫び申し上げます。まず中嶋奉仕プロジェクト委員長さんと、前国際奉仕の松本委員長のお話から。費用対効果といったものをきちっと捉えてお考えになっていることが、まず一つ指摘できると思います。とても大事な観点でありまして、そして社会奉仕の絡みでも、先ほど中嶋委員長、それから宇田川委員長からもありましたが、柏市など現実に、高田会長さんの奉仕している団体が数多あると言うことを引用されまして、その中でどういう方針があるべきか、どういう団体がどんなことで頑張っていて、では我々ロータリーは何をするのかという視点が、とてもよく彫り込まれていると思います。

それでお子さんのことにつきましても、子どもの貧困と言ったもので宇田川委員長から具体的にありましたが、実は中村パストの専門ですけれども、私も実はちょっと勉強してきました。手続き要覧を少し眺めてきましたけれども、ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが好ましいだろうとい

うことがあります。あるいは色々な団体がいろいろなことをやっているものを取り上げてはいけないという、あるいは真似してもいけないという、要は我々が我々の目で、言わば隙間になっているとか、どこも取り上げられていないような事柄をやるといったことを、しっかり基本理念として声明が出されているわけでありまして。そのような観点でいまご報告いただいたところは、そういったことを意識されていらっしゃるなと思いました。理屈ではなくて感覚としてお持ちなのかなと思いました。やはり事業をやっていらっしゃる方の、少なくともそういう感覚というのは持ち合わせているものなのですけれども、ズバリロータリークラブとしてのRIとしても声明を出しているようなものに、きちっとなぞらえているところが、実は感心させていただきました。

そのことで言うと、子どもの貧困そのものについて言うならば、南クラブさんが前年度、中嶋さんが幹事をされて、金子さんが会長の時の、前年度において、南クラブさんが大変試行錯誤されて、子どもの貧困について取り上げて実践活動されました。ひとつの結論を出しています。是非、小林前会長さん、幹事さんも小林さんといいますが、是非伺ってみると同じ苦労をしなくて済むのではないかと、そのところは南クラブさんのトライを階段にして、ステップアップできるのではないかと思います。また柏市には子育て支援課と言う課もございま

して、そういうところとのタイアップと言いますか、さまざまのことを聞くと言ったことを、柏市の社会福祉協議会と同様に、とてもよろしいのではないかと思います。

さて国際奉仕について、非常に前向きな見直しといったものがクラブから出されて、会長さんとの考え方もあってですね、これだけ40年にならんとする伝統と言いますか、引き継がれてきたものを見直すのではないかと、まずその意見が出てそれをみんなで話し合うと言う姿に、すごいですね、これ普通、触れたくないような部分、まあ去年までやってるんだからいいでしょうみたいな、後ずっと大先輩がやってるんだから、俺の代でやめるわけにはいかないよみたいなのが、日本人の性格であろうと思いますが、それをきちっとですね、皆さんが捉えて、本当に意味のあるものをなんなんだろうかなというところからスタートされていると思うんですね。やっぱりお金もかかるし時間もかかるわけですから、そしてその効果といったものがどこに焦点を置くのか、というところなんですね。大変そこについてという姿に、素晴らしいと思います。嶋田委員長さんもまずは一回見てみようよとか、次世代の、代替わりもしているのだから、やはり色々な状況の変化というものをきちっと見極める中で、議論の場をさらに発展させたりというようなお考えでしょうから、とても健全な進め方をされているのではないかと、ちょっと偉そうで生意気なんですけれども、そのように思わせていただいた次第でございます。

そういう非常に前向きでそして原点を捉えようというところが全てにおいて発表にございまして、秋元委員長さんからもシンガポールを選択した理由が述べられました。正に今の地域社会と言うか、日本の社会を背負っている事柄を意識されていて、なおかつメンバーに高島屋さんがいらっしゃるといった、そういった人脈といったものを活用しようじゃないかという、とても素晴らしい観点だと思います。もう少し私、どちらかと言うとマイナーな話をしたりする方が好きな人間なんですけれども、素晴らしすぎてですね、これお世辞じゃないですよ、私、いいものはいい、違うものは違うと言う人間だものですから、本当に素晴らしいなと思って、西クラブさんがこのように会員が増える理由の一つがわかったような気がします。

そろそろ結びをさせていただきますが、今の高島屋さんの話もそうですし、台中港さんとの関わりもそうなんです。すべて人のご縁といったものを、そこからいろいろなものがスタートするという気もします。先ほどのネパールの援助にしても、奨学生といった関わりがございましたし、それはどんな人と知り合うかという、そこに何かがありそうな気がします。ロータリークラブがいいのはそこじゃないでしょうか。やはり色々な人と出会いがある。そしてそれをどこかでそれが結びつくことがある、というようなことを感じるがございます。もちろんロータリークラブ以外にも、色々な機会を持って

る方はたくさんいらっしゃると思いますが、私も実は今回このロータリーの友の8月号を読みましたら、女性会員を増やそうじゃないかと言う、会員増強の特集が組まれていたんですけれども、そこに十和田湖のロータリークラブにいらっしゃる2830地区ガバナーの、佐々木さんという方が書いてる記事に出会いましたけれども、たまたま私、寺嶋さんの時の会長ということで、今回トロントの国際大会に行きました。その時に飛行場の待ち時間で、この佐々木さんにお会いしました。それでお話も交わしました。この女性会員について若干話しました。つまり女性のガバナーというのが僕にとってはとても珍しかったと言うか、もちろん今でもいらっしゃるんですが、その方がここにこういう記事を書いていらっしゃるって、それはあそこで聞いた話と極めて似通ったということで、ひとつご縁を感じました。やはりそういったきっかけがロータリークラブを一生懸命やっていると出てきて、そして自分磨きの一つの階段になるのではないかと、言うことをまた今日を思わせていただいたわけでありませう。

そして今日は、高田会長さんが「未来の年表」と言う本を紹介いただきました。私も是非読みたいと思っております。実は高田会長さんは、原点を考えるという方向といったものをお持ちの方だなどいうように、先輩ですから、偉そうには言えないんですが、教えていただいたと思います。それはなぜかと言うと、ちょっとここで最後結びにPRをさせていただきます。来年の2月27日にIMということで、IMはガバナー補佐がやらなければならないという仕事としてあてがわれているんですが、こういう時に人口減少社会というものを取り上げようと思っておりますね、会長、幹事さんに実は投げかけました。その時に高田会長さんが、人口減少といった問題は確かに大きな社会の問題であるけれども、そこにロータリーといったものが一味必要なんじゃないかと言うお話をされました。結局私は人口減少云々でテーマを決めようと思いましたが、今ここに載っていますが、人口減少とロータリーという風にやりました。ですから人口減少を考えるときに、我々はロータリアンであるという立場をどうそこに味付けていくか、我々は何ができるのかということを含めてIMが展開しなければならぬ、という重い課題を高田会長からいただきまして、あっさりやるつもりがそうはいかないということになりまして、私も今、ひたむきに頑張らなければいけないと思っているんですが、そうゆうロータリーとは何かとか、どうせやるなら、どうせお金をかけるなら、どうせ時間をかけるなら、いいものをやろうではないかと、やった後も我々も満足する物をやろうじゃないか、と言うところが以上に全てを通して感じる事ができました。

私もおかげさまでロータリーに入らせていただき、今こういう役を頂いて今日、皆様のお話を聞く機会をいただきましたことを、大変貴重な時間を頂いたを思っております。どうもありがとうございました。



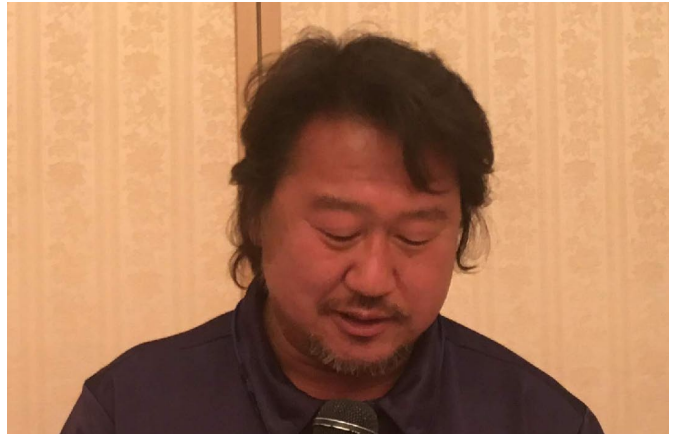
米山記念奨学会寄付感謝状 鈴木子郎・鈴木桂三会員



クラブ協議会発表 奉仕P委員会 中嶋利生 委員長



同 前年度国際奉仕委員会 松本ユミ 委員長



同 職業奉仕委員会 秋元慶一 委員長



同 社会奉仕委員会 宇田川博司 委員長



同 国際奉仕委員会 嶋田英明 委員長

これからの例会予定

月日	曜日	例会	卓話者・他内容
8月17日	金	任意休会	
8月24日	金	合同	橋岡久太郎ガバナー
8月30日	金	夜間移動	納涼会
9月7日	金	通常	石井崇会員
9月14日	金	通常	岡島昭信会員

出席報告

会員数	68名
欠席者	14名
江口、江波戸、長田、影山、後藤、小林正直、小林直人、志村、東海林、杉山、住吉、升谷、水留、山田 会員	
出席率	79.41%

ゲスト

溜川良次（第11グループガバナー補佐）様

ニコニコBOXありがとう！

★ (^_^)

溜川様 よろしくお願ひします

次回の例会は **8月24日** (金) 通常例会です。

クラブ会報委員/浅野 肇・住田 みゆき・竹澤 雅彦

卓話・会報の原稿は kwrc.photo@gmail.com までお送り下さい。

欠席報告は、水曜日の正午まで

※クレストホテル(営業課)04-7146-1122 まで
 ※LINEでの連絡も可能です、詳細はSAAまで
 ※直前の欠席はSAA 安田(080-5680-5460) まで